

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所そらいろキッズ		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 20日		～ 2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・土曜日活動で事業所だけではなく、外部へ行き、いろいろな体験に取り組んでいる。	・土曜日活動では外部施設への外出を取り入れ、公共のルールや買い物・人のやりとりなど、実生活に近い経験ができるよう工夫している。事前説明や振り返りを行い、安心して参加しながら達成感や自信につながるよう支援している。	・子どもの興味や発達段階に応じて活動内容を広げ、事前の見通し支援や視覚的な工夫を充実させることで主体的な参加を促す。活動の様子を保護者と共有し、家庭や地域とのつながりを深めていく。
2	・1日保育を行い始め、個別対応を行うことができ、生活習慣に特化している。	・1日保育を実施することで個別に関わる時間を確保し、食事・排泄・着替え・身支度など生活習慣の定着に向けた支援を行っている。本人のペースや発達段階に合わせ、繰り返し経験できる環境づくりや丁寧な声かけを意識している。	・一人ひとりの生活面の課題を共有し、支援方法の統一を図ることで継続的な支援につなげていく。また、家庭との連携を深め、事業所と家庭で一貫した関わりができるよう支援の充実を図る。
3	・オリエンテーションや焼き芋会を行い、保護者同士やきょうだい同士が交流する機会を設けられている。	・職員や保護者同士、子どもたちが同じ環境の中で、活動を通して、事業所での様子を知ることができた。家での様子や困りごと等を相談したり、交流することができた。	・職員のペアレントトレーニング等に関する研修の計画を立てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門性のある職員が確保できていない。	・専門的な視点での発達状況などを職員が理解し支援に活かすことで、より良い支援に繋がり、子どもの心身の成長に活かせるのではないかと考えるが、なかなか人員確保が難しい。	・外部研修やオンライン研修への参加を通して職員の専門性向上を図るとともに、職員間で発達理解や支援方法の共有を行い支援の質を高めていく。また、関係機関と連携し、専門的な視点を支援に取り入れられる体制づくりを進めていく。
2	・公開療育を行っていない。	・普段の活動から、長期休みの活動に職員を取られ、時間と職員確保が厳しく、行うことができなかった。	・次年度は職員の人数確保スケジュールとを調整し、公開療育を行えるよう計画していく。
3	・放課後児童クラブや児童館での交流や地域の他の子どもと活動する機会がない。	・安全面への配慮や支援体制の調整が必要なことから、地域施設との連携機会が少なく、交流の場を十分に設けられていない。	・地域の放課後児童クラブや児童館との情報共有や連携を進め、無理のない範囲で合同活動や交流機会を段階的に取り入れていく。事前準備や職員配置を工夫し、安心して参加できる体制づくりを行う。